

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493800013
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家横浜茅ヶ崎東
訪問調査日	平成19年8月27日
評価確定日	平成19年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1493800013		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家横浜茅ヶ崎東		
所在地	224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東5-5-18 (電話)045-949-2157		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年9月30日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	7月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	6 人,	非常勤 12 人, 常勤換算 9 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建て	1階	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 80歳	最低	69歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 鳳和会 港北メディカルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は(株)ウイズネットで、本社はさいたま市、埼玉県を中心に居宅を中心とした介護事業から展開を開始し、その後、各種福祉施設(有料老人ホーム・グループホーム・デイサービス等)や福祉用具レンタル・販売、ヘルパー養成講座などを展開、神奈川県ではグループホームを中心に展開をし、グループホーム22箇所が稼働し茅ヶ崎にはデイサービスを展開している。利用料金が安い点は特徴の1つと云って良い。企業の理念は「必要な人に必要なサービスの提供を」である。福祉の専門のフリーペーパー「WIS」を発刊し、福祉情報の提供する他、グループ広報誌「ネット通信」を発刊、玄関前に置いて自由に持ち帰って頂き好評である。ホームのロケーションは横浜市営地下鉄線センター南駅から徒歩14~5分のところにある。周囲には畑がまだ残り、近くを川が流れ、前の道は通り抜けが出来るので散歩にも安全である。老健茅ヶ崎は町内会長さんが地主であり、連携出来る間柄にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての評価であり、基本的には今回の評価を参考にしながら改善に取り組む予定にしている。但し、グループホーム「みんなの家横浜三保」を皮切りに、既に横浜でグループホームを展開してきた実績とノウハウがあり、その反省とノウハウは新グループホームで生かされており、今回の評価ではスタッフ会議で内容の理解を促した上で臨んでおり、指摘、気付きを改善に生かしたいと考えている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は各ユニット、各担当に書いてもらい、それを纏めた。外部評価については本部としても、グループホーム「みんなの家横浜茅ヶ崎東」として職員教育の一環と位置付けており、スタッフのレベルアップの手段として重要視している。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は第1回目を8月24日に実施した。メンバーは町内会長、民生委員、地域包括支援センターの方、都筑区役所の方、それに家族会のメンバー6名、グループホームの関係者それに本部職員で実施した。町内会長さんは隣の畑の持ち主でお付き合いがあり、老健茅ヶ崎の地主さんでもあり、老健茅ヶ崎との橋渡しをしてくれるなど協力的で感謝している。今回のテーマはグループホームの説明、地域とのかかわりあいなど、グループホーム側の説明を中心に行った。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>この度、家族会を結成し実施する予定になっている。家族会のご家族との個別の情報交換のみではなく、全体として情報提供の場に行きたいと考えている。ご家族は比較的良く訪問してくれ、協力してくれている。個別の情報提供については毎月「一言通信」をお送りしている。「一言通信」は費用明細の他に利用者さんの生活の様子に職員のコментарを記し、情報提供に加えて職員と家族の絆が深まればと期待している。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ウイズネットのグループホームの展開は大家さんからの借上げを原則として展開しているので、大家さんとの関連で地域との密着度は深く、抵抗無く受入てもらっている。玄関前にジュースの自販機や福祉の専門のフリーペーパー「WIS」を置き、地域の方々達との交流に役立っている。隣にグループホーム「みんなの家横浜茅ヶ崎東2」を建設中であり町内の他のグループホームにも声をかけ、一緒にイベントを企画したいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔をつかち合い、共感しあえるホーム」と云う理念を掲げ、柔らかな笑顔で、散歩に出掛ける時は近くの方々に笑顔で挨拶を交わし、お互いに心が通じるよう心がけ、地域に受け入れてもらえるようしている。町内の回覧版は車椅子の入居者と一緒にお届けしている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共通の目的を持ち、コミュニケーションを緊密に取り、チームケアに徹するための理念を設定し実行している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の協力を得ながらの防災訓練を予定している。町内で実施される行事に参加している。老健茅ヶ崎とは町内会長さんの関係でお付き合いがある。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義を理解し、スタッフ全員で自己評価を行った。評価改善は今後の課題であり、課題を明確にし改善して行く決意である。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を8月24日に実施した。メンバーは町内会長、民生委員、地域包括支援センターの方、都筑区役所の方、それに家族会のメンバー6名、グループホームの関係者それに本部職員で実施した		・定期的な運営推進委員会を開催していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議実施に当たり、都筑区役所の指導を頂き、その後もその関係が維持出来ている。また、ホームのご利用者の中で、生活保護利用者の担当のケースワーカーとは交流がある。		今後も関係を維持継続して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会のご家族との個別の情報交換のみではなく、全体として情報提供の場と考えている。ご家族は比較的良く訪問してくれ、協力してくれている。個別の情報提供については毎月「一言通信」をお送りしている。「一言通信」は費用明細の他に利用者さんの生活の様子に職員のコментарを記し、情報提供に加えて職員と家族の絆が深まればと期待している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書等に苦情相談についての事項を載せている。玄関前に投函ポストを設置しており、皆様のご意見を求めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状は隣に建設中の「みんなの家茅ヶ崎東2」のスタッフ確保も含めて職員の増員中であり、職員は流動的な状況にある。チームケアを徹底し、ケアの連続性を確保することで利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。特に混乱等は無い。		今後もチームケアを徹底するとともに、早期に安定した状況の確立に努めて行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内に教育担当会社アビアントがあり、フォローアップ等研修案内は周知され、その機会は多くあり誰でもが希望すればシフトを調節してもらい受講できるので、自己研鑽には適した職場である。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ加入していないが、グループホーム連絡会に参加したいと考え手続き中である。横のネットワーク作りをしていきたいと考えている。		同業の会、地域包括支援センターなどを活用し横のネットワーク作りをしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学をして頂き、入居を前提とした入居などを経て本人が安心し、納得した上で入居してもらっている。入居後は利用者、ご家族の意向を伺い、場の雰囲気を大切にしながらサービスの提供している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に台所で食器洗い等をしながらかけてもらっている。 共存生活を心がけている。 職員と会話をする時間を作っている。 	○	今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの人格を尊重し、家族から昔の生活について話を聞き、その人らしい生き方をしていただけるよう耳を傾けカンファレンスに反映しケアに活かしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・家族の意向を可能な限り取り入れ作成後は説明し同意を得ている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が観られた時、スタッフで話し合いは常に行っている。ご家族の関係者との話し合いは主にホーム長が行っている。現状に即した対応が出来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	天候により散歩又は買い物等に出掛けるように支援している。		可能な範囲で野外に出る回数を増やしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の主治医又は事業所の協力医療機関において必要な治療等が受けられるようになっている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の認定を受け、24時間ケア体制を確立し、重度化や終末期を見すえて利用者の状態を把握し、協力医師・事業責任者・家族全員で十分な話し合いが出来る体制を取っている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者一人ひとりの性格を把握した上で言葉掛けや対応するよう心がけている。個人情報等は鍵のかかる書庫に保管している。	○	今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしに合わせた対応は可能な限り支援を行っている。職員側の決まりや都合を優先するようなケアは行っていない。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。テーブル拭き・配膳・片付け・食器拭き等ご利用者と職員が一体となり行っており、生活意欲の向上にもつながっている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて無理強いせず、時間帯の許す範囲内で極力ご希望に合わせて、気持ちよくくつろいだ入浴が出来る様支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者一人ひとりが楽しみ事や、役割を見出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。(食器拭き、洗濯物干し、掃除、植木の水やり等)		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさずに積極的に外に出掛けて楽しめる様支援している。(買い物、散歩等)		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者から守るために玄関には施錠をしているが、2U入り口・各居室に職員から施錠はしないケアを実施している。自立しているご利用者は、他のご利用者が入ってくると云って鍵をかける方もいる。鍵をかけなくてもよい生活が出来るよう工夫して取り組んでいきたい。	○	永遠の課題として常に念頭に置き改善の努力を継続して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まだ実施できていないが、消防署の指導を頂き実施を企画中である。		実施する予定。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録している。摂りたがらないご利用者に対しても声かけをしながら、栄養バランスを考慮し、摂取量の促しを支援している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方々の生活感を重視し、居心地良く過ごせる様工夫している。季節毎の風物詩をご利用者と職員と共に制作し、フロア内に展示している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に馴染んだ物が持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム みんなの家横浜茅ヶ崎東
所在地 (県・市町村名)	224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東5-5-18
記入者名 (管理者)	渡辺 淑子
記入日	平成 19 年 7 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「笑顔を分かち合い、共感しあえるホーム」と理念を掲げている。 ・笑顔で柔らかに…散歩に出掛ける時、近くの方達に笑顔で挨拶を交わし、お互いに心が通じるよう心がけ、地域に受け入れてもらえるようにする。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共通の目的を持ちコミュニケーションを緊密に取りチームケアに徹するため理念を設定。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・ホーム内の目立つところに法令にのっとり開示している。 ・ご利用者の権利・義務等を利用案内時の説明文書及び契約書にわかりやすく示し、ご利用者・ご家族等に説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・玄関前に自販機、ベンチを設置。地域の方が気軽に利用できるようになっている。 ・ホーム長・スタッフは近隣者等に気軽に立ち寄ってもらえるための方針会議を持って検討中である。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域住民の協力を得ながらの防災訓練を予定している。 ・町内で実施される行事に参加している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症を理解して頂く為の勉強会を予定している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を実施する意義を理解し、スタッフ全員で自己評価を行った。評価改善は今後の課題であり、現時点では不明である。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族会を開きその声をホームの運営に活かす。</p>		<p>・玄関前に投函ポストを設置しており、皆様のご意見を求めている。</p> <p>・定期的な運営推進委員会を開催する。(8月24日予定)</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・グループホーム連絡会、当ホーム未参加。</p> <p>・当ホームご利用者(生活保護利用者)担当のケースワーカーと交流がある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>本社で開催している研修・セミナーの開示。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>申し送り、カンファレンス等での虐待防止の指導及び施設の有無、声かけに等による虐待事例の回覧を行っている。</p>		
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に担当者が同席し、重要事項や負担内訳について説明を行っている。		家族より問い合わせがあった時、分かる事は統一し分からない事は責任者に報告し、後から連絡する等必要な手段を講じている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活内での意見・不満は可能な限り傾聴し、個別対応はしているが外部者へ表せる機会はない。		ご利用者間の人間関係で職員が不満を聞いたときは席替え・声かけ等必要な処置が取れるようにカンファレンスを行っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに入居者様の日常の様子、出納帳の報告を定期的に行っている。問題が生じた時はその都度連絡を入れている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書等に苦情相談についての事項を載せている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会社全体として行われていない。 ・全体ミーティングを実施し、意見を出してもらい職員間の意思疎通を図り、サービスの向上に努めていきたい。	○	・各事業所の声も聞いて欲しい。 ・定期的に会議を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	会社全体の方針が拡大・開所にあり、ひたすら前にある仕事をこなすのが精一杯の状態。	○	・人的資源に乏しい中で、余りに長時間の勤務は結果として定着率を下げ、サービス低下になることを訴えていきたい。 ・職員募集の新聞折り込み配布 ・ホーム敷地内に募集ポスター掲示
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前項と同様に全く考慮されていない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ等研修案内は周知され、その機会は多くあり誰でもが希望すれば受講できるので、自己研鑽には適した職場である。	○	シフト調節に努めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・個人的に行っている人はいるが、多くはその機会に恵まれない。		グループホーム連絡会に参加し、横のネットワーク作りをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス解消の手段として、個別面接を行い話を聞くようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・定期的なフロア会議を行って、個々の取り組み・実績等を話し合うことで向上心の高揚に努めていきたい。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者との信頼関係を築くことは最も大切な事であり、スムーズな援助ポイントである。認知力低下し、自己判断・主張出来ないご利用者にはその人の気持ちになって代弁し、受け止めてあげる努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	こまめにホーム長を通して連絡を取っている。		「ほうれんそう」の徹底。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス提供を行う為にカンファレンスを開催している。 ・相談や見学時、その他の時間であっても話を聴くように努めている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気を大切にしながら業務に遂行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一緒に台所で食器洗い等をしながらかけてもらっている。 ・共存生活を心がけている。 ・職員と会話をする時間を作っている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日常の生活の様子を話すと共に、毎月一言通信として日々の様子等を記録し、ご家族に送っている。		ほとんど面会のない家族への対応についても検討中。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時、ご利用者と会話がしやすい雰囲気を提供している。談話の中で情報を集め、支援に活かしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	皆様が気軽に訪問し易い雰囲気を作っている。又、手紙等のやりとりを出来るようにしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席など個々の人格・個性・本人の意見を尊重し、より良い関わりが持てる様に努めている。		ご利用者同士の関係を把握し、座席などは時々変えたりと工夫していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			現時点で利用終了された方はいらっしゃらないので今後の課題である。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生き方をしていただけるよう耳を傾けカンファレンスに反映しケアに活かしている。		家族から昔の生活について話を聞くこと。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の中で把握できていない部分もあるが、回想法等により引き出せるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り・連絡ノート等で状態を把握し、その日のケアに努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・家族の意向を可能な限り取り入れ作成後は説明し同意を得ている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が観られた時、スタッフで話し合いは常に行っている。ご家族の関係者との話し合いは主にホーム長が行っている。現状に即した対応は出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「連絡申し送りノート」を作成し、情報を共有している。	○	記録の精度をあげること。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	天候により散歩又は買い物等に出掛けるように支援している。		野外に出る回数を増やしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議等を通じて、地域資源との協働を深めていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じて協働を深めていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の主治医又は事業所の協力医療機関において必要な治療等が受けられるようになっている。	○	
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に相談し支援している。	○	
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問看護が入り、ご利用者の健康管理を行っている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関の主治医と話し合いが行われている。	○	まだ入院されたご利用者は出していないが、主治医と連携を計れるように話し合いをしていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医師・事業責任者・家族全員で十分な話し合いが出来る体制を取っている。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	準備は出来ている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境変化のダメージは本人にとって計り知れないことと理解しているので十分な配慮を考えている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者一人ひとりの性格を把握した上で言葉掛けや対応するよう心がけている。個人情報等は鍵のかかる書庫に保管している。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に選んで頂くように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしに合わせた対応は可能な限り支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・訪問理美容を利用。 ・希望される方にシニアセラピーをホーム内で行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。テーブル拭き・配膳・片付け・食器拭き等ご利用者と職員が一体となり行っており、生活意欲の向上にもつながっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	手作りのおやつや好みに合ったおやつ等にて楽しめる様支援している。又、タバコは指定された場所にて職員が同行して楽しまれている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけを工夫し、プライドを傷付けない様、気遣い、清潔感を踏まえて習慣付けできる様に支援している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて無理強いせず、気持ちよくつろいだ入浴が出来る様支援している。ある程度の時間帯は制限されている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜寝れないご利用者には、一日の生活リズム作りを通した安眠策をとっている。ご本人の要望や状態をみて声かけ等を行い、いつでも休息が取れる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者一人ひとりが楽しみ事や、役割を見出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。(食器拭き、洗濯物干し、掃除、植木の水やり等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、金銭管理のできる方はご家族で持たれているが、困難な方は事務所での預かりになっている。		外食・買い物に外出する回数を増やす。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさず積極的に外に出掛けて楽しめる様支援している。(買い物、散歩等)		季節により差異があるが、散歩は可能な限り増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回ではあるが、大掛かりな外出機会(花見・芋掘り・祭り等)を作り支援している。家族との外出も制限せず行っている。	○	回数を増やしていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者本人から希望がある場合に電話、手紙のやり取りが出来る様支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず、訪問時にはお茶・時には一緒におやつをお出しし接待を含め心地良く過ごして頂けるよう心がけている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを認識しており、身体拘束のないケアを実施している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者から守るために玄関には施錠をしているが、2U入り口・各居室に職員から施錠はしないケアを実施している。	○	自立しているご利用者は、他のご利用者が入ってくると云って鍵をかける方もいるので、鍵をかけなくてもよい生活が出来るよう取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は可能な限りご利用者が視界に入り、何かあったらすぐに対応できるよう心掛けている。夜間は巡視にて安全・安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告・ヒヤリハットにて、改善策を話し合い再発防止に取り組んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変等のマニュアルがあり、緊急対応が出来るよう周知されている。 ・定期的な訓練は行われていない。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実施されていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況に応じては主治医より家族に説明、又はホーム長より家族に説明し、申し送りの中でカンファレンスを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック表等を元に様子観察し、気付いたときは職員同志速やかに周知し、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が使用する薬の目的等周知しており、医師の指示通りに服薬できるよう支援、様子観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解している。飲食物にヨーグルト・牛乳を取り入れている。		体操を促すと参加されない方が何名かおられるので、毎日取り入れている。これからは、どうしたら全員が参加できるかに取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で行えるご利用者に対しては声かけ促し、出来ないご利用者に対しては声かけ誘導と共に口腔ケアに取り組んでいるが、ヘルプ対応の時は出来ていない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録している。摂りたがらないご利用者に対しても声かけをしながら、栄養バランスを考慮し、摂取量の促しを支援している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	7月末に疥癬者がでました。急遽マニュアルを作成し、ご利用者・ご家族とも相談し、感染予防に努めました。徹底した衣類の消毒・手洗い・うがいの遂行をうながした。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾類、カップ等の消毒。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	訪問者の視点に立って威圧感のないよう室内の飾りつけや、設置場所を考慮・工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方々の生活感を重視し、居心地良く過ごせる様工夫している。季節毎の風物詩をご利用者と職員と共に制作し、フロア内に展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にソファがあり、ご利用者が独りになったり、気の合ったご利用者同士で自由に過ごせる居場所を確保している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に馴染んだ物が持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。		
	○換気・空調の配慮	夏には自然風、冬はエアコンの暖房、加湿器、換気機など、		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>気になる臭いや空気のよどみがない様に、換気をしている。天気の良い日は毎朝の掃除の際に窓を開け換気に努めている。冷暖房の温度調節は利用者の状況に合わせて設定し、こまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床はバリアフリーで、クッション性の床になっている。トイレ・浴室・脱衣所・居間・廊下などの壁には手摺を設置している。</p>	○	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレには分かり易い文字で表記をしており、各居室にはご利用者本人の写真や、記念の品物を置き自立して暮らせる様に工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前にはベンチ・パラソルを設置し、季節の植木鉢を配し、ご利用者がみずやり・剪定などして楽しんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・人手不足の中、集団レクリエーション・家事参加に力を入れ、合間の時間に談話して過ごしています。
- ・特に当たり前の人間として出来ることはして頂く事が自立支援（生活リハビリ）と思っています。
- ・特別な事は何もしていませんが家にいる雰囲気を作ることにこだわっています。